

Subject: 【参考情報】東日本大震災の企業の対応情報 3/29

○ 塾長からの情報です。

京都大学防災研究所が、「2011年東北地方太平洋沖地震に関するウェブ情報のTR解析」としてYahoo ニュースから24時間ごとに今読むべき記事を配信しておりますのでご紹介します。

[http://www.trendreader.jp/tr\\_analysis/2011tohoku\\_eq\\_portal.html](http://www.trendreader.jp/tr_analysis/2011tohoku_eq_portal.html)

ALL311東日本大震災情報協働プラットフォーム(<http://all311.ecom-plat.jp/>)を支援する、(独)防災科学技術研究所の理事長の岡田義光氏が、東北地方太平洋沖地震についての地球科学的な観点から大局的に解説してありますので、多くのかたがたにとって参考になると思います。

[http://www.bosai.go.jp/news/oshirase/20110323\\_01.pdf](http://www.bosai.go.jp/news/oshirase/20110323_01.pdf)

○ 最近会員になられて、近いうちに参加予定だった仙台にお住まいのメンバーから近況です。

=====

いつもお世話になっております。仙台のXXです。

私の住んでいる名取市も津波で大きな被害を受けました。

宮城県には宮城県沖地震を想定してのBCPや防災が行われてきましたが、今回の津波はハザードとしてはまったくといっていいほどとらえられていませんでした。(20年前に発生した宮城県沖地震は津波は発生しませんでした。)

現在も津波による犠牲者の捜索がおこなわれています。ライフラインも復旧し、食料等の物資も手に入るようになりましたが、ガソリンが手に入らず、遠方へはいけない状況です。(ガソリンスタンドには前日の夜から順番待ちの車で、市内は渋滞しています。)

生活は徐々に落ち着いてきましたが、まだ余震がつづき、危険な地域には立ち入れない状況です。

津波に被災された人たちは避難所にいますが、もう2週間を超えていますので精神的にも限界かと思われ、先週、近くの沿岸部にいきましたが、車は大破し、家は崩れる、立っているものはなにもない、といった様子でした。自衛隊のヘリが飛び回り、道路には安置所の看板がでていてまさに戦争時という状態でした。

テレビで全国の方々が復興に向けて手を差し伸べてくれるのは本当にありがたいことです。

幸いにも被害の少なかった人たちは全員「生かされた命だね」と言っています。

私もこの生かされた命を次のBCP、防災に役立てればと思います。

まずはご報告まで。

よろしく願います。

=====

### ● Japan Quake Map

その地震ですが、このMapで見るとまるで打ち上げ花火です。いかに大変だったか良く分かります。

URLに接続すると、そのままスタートしますが、最初に次のことをしてください。

「Map」のしたの「航空写真」の下、Display Option の Sticky Dots をクリックしておく、発生地点のドットが残ります。最後にどれほどの地震範囲だったのか良く分かります。(3月11日の午前1時から開始しますので、時間はありますので、あわてる必要はありません。)

また、Mar 14 日くらいからは「All Days (823)」の下の早送りボタンにすると便利です。  
それでもしばし時間がかかりますが、最後のドットをみると海溝に沿って発生したことがよく分かります。  
失敗しても、プレイボタンで最初に戻り再生できます。11 日から 29 日まで 823 回分の記録です。

<http://www.japanquakemap/>

(上田追記:以降更新されていますので、いつでも最新版が閲覧できます。)

### ● もうホテルは満員

関西のホテルの 4 月は満室の状況だそうです。香港のホテルも日本からの予約で大変らしいです。

特に外資系企業が放射能の危険から、東京・日本脱出を図っているといわれています。

真偽はともかく、これは予兆ではないかと考えています。実はもっと先の想定をしていて、すでに予防的処置を取り始めたということでしょう。当面放射能の問題がありますが、その先は電力不足というかなり深刻な問題が現実化してきたことに、対処を考えています。(大げさに言えば、いままでは効率的だと思われてきたのに、実は脆弱だった日本の産業の課題に対してかもしれません。) ホテルでいつまでも対応できるはずもないので、ホテルの満室は一時的な現象で、次の業務の継続対策を始めていると考えないといけないのではないのでしょうか。今からはじめないと、顕在化してからでは遅すぎるということでしょう。それに、みんなが同じ動きをすれば、結局は無理をしたり、高い費用を支払うことになり、また準備をするにも時間がかかります。

危機管理とは、その先に起きるかもしれないことに、先手を打って予備的対処を準備しておくことではないのか、と考えさせられます。

今週に入って、担当者皆様はすこしほっとして、横目で原発を睨みながら平時に戻りつつあるのではないのでしょうか。しかし、休んでいいのか、もう一度この先の準備は間に会っているのか、大局から見直しておく必要がないのでしょうか。

顕在化してから、対処をするのでは後追いで、必要な努力は数倍になります。

今休むのではなく、時間が出来た今こそ、大局を見直しませんか。

(以上私見です。)

上田

「危機管理に関する勉強会」事務局

eMail : sjuku1@gmail.com